

平成19年度海外研修派遣

群馬県立県民健康科学大学 診療放射線学部
高橋康幸

1. 期待していたこととその成果

期待していたこと：分子イメージングは、各種疾患の経時変化を分子レベルで非侵襲的に検出し画像化する技術として注目されていることから、その研究内容や今後の展望について学習いたしました。

その成果：分子イメージングのプローブには、放射性核種や蛍光マーカー等が利用されています。本研修においても RSNA2006、SNM2007 で報告されていた MRI によるピルビン酸塩 (¹³C) を利用したイメージングの研究成果が述べられました。これはピルビン酸塩が腫瘍の代謝に必要とされる乳酸塩等に体内で変換されることによります。一方、PET では DNA の合成過程を計り FDG より診断能を向上させる FLT、初期アルツハイマーの診断に有効とされるアミロイドイメージング製剤の FDDNP など新しいトレーサーが報告され、またそれぞれのトレーサーに応じた検査方法が導入されました。

2. 診療放射線技師から見た日本と米国の違い

教育・業務事情：米国における診療放射線技師に関する大学は約 70 校とされており、その教育システムが州単位で異なることは周知のとおりです。しかし、定期講習会の受講の義務や 2011 年資格取得者からは免許の更新性が導入されるなどの動きがあり、医療業界の再編が進んでいました。なお、医療機関における診療放射技師の定数について質問したところ特に定められていないようで、また残業もあまりしない（就業時間を厳守）ことから、勤務時間をずらし病院（部門）を掛け持ちされる方もおられるようでした。

診療報酬：CT 検査は約 100 万円（内訳：読影 \$ 508、検査 \$ 1,921、造影 \$ 4,835、3D angiography \$ 1,000 ~ 1,800）とかなり高額でした（Stanford 大学の場合）。

3. もっとも印象に残ったこと（セミナーとイベント）

講義や分子イメージング施設見学など挙げればきりがありませんが、大学のご好意により昨年は実施されなかった大リーグ観戦（サンフランシスコジャイアンツ-アトランタブレーブス）が気分転換として楽しめました。

4. 今後の海外研修の在り方について

著名な先生ばかりでしたが、個人的に先生方の論文をあらかじめよく読んでいなかったことが悔やまれます。渡航前に予習をして先生の専門分野の質問を行うことができれば、より実りのある研修になつたのではないかと反省しています。



「スタンフォード大学（main quad）にて」

撮影：茨城県立医療大学 原先生